

学生の自主的学習を効果的に促進する指導モデル

杉田由仁* 流石ゆり子* 吉田文子** 平田良江* 小林美雪* 須田由紀* 井口久美子*
(山梨県立大学看護学部* 佐久大学看護学部**)

1. はじめに

学生が、自主的に学習に取り組む習慣を身につけることは、学力の向上や授業への意欲につながっていくと考えられる。看護学部はこれまで、学部 FD 委員会を中心とした教育の質向上への取り組みにより、平成 22 年度前期授業評価においては全 18 評価項目の内 17 項目が 4 ポイント以上となる評定値平均を達成し、「No. 16 予習・復習など自主的に授業以外に関連した学習をした」のみが 3.74 (全学平均 3.57) に留まっている状況である。そこで、より一層の教育の質向上を図るために、学生の授業以外の自主的な学習を効果的に促進するための具体的手立てのあり方(指導モデル)について調査研究を試みることにした。

2. 調査目的

自主的学習に関わる授業評価項目において学生から高評価を受けた科目担当者に調査協力を依頼し、学生の自主的な学習に関わる現状分析・プランニング・実践・自己評価について調査を行い、自主的な学習を効果的に促進する指導モデルの構築を試みる。

3. 調査方法

平成 21 年度後期および平成 22 年度前期に看護学部教員が担当した看護学部課程科目の内、「No. 16 予習・復習など自主的に授業以外に関連した学習をした」の評価項目において高評価(4.2 ポイント以上)を受けた 15 科目の担当者に、平成 22 年 10 月から 11 月にかけて「自主的学習調査」を依頼したところ、回答期限までに下記の 9 名(7 科目)から回答が提出された。

調査協力者および担当科目一覧

調査協力者	担当科目名	区分	履修者数
A(女性・准教授)	看護教育学	選択	5
	看護継続教育論	選択	5
B(男性・教授)	医学一般	選択	20
	死生学	選択	10
	解剖生理学	必修	99
	病態治療学	必修	99
C(女性・准教授)	臨床看護学Ⅲ(クリティカルケア)	必修	107
D(女性・准教授)	周産期看護学Ⅰ	必修	101
D(女性・准教授)・E(女性・講師)	助産診断技術学	選択	7
F(男性・講師)・G(女性・准教授)	基礎看護技術論Ⅰ	必修	102
H(女性・講師)・I(女性・教授)	小児臨床看護援助論	必修	98

調査内容は、1)学生の自主的学習に関わる現状分析とプランニングをどのように行っているか、2)予習・復習など授業以外の自主的学習に取り組ませるための具体的な実践内容

とはどのようなものか、3)実践と指導効果の自己評価に基づき、自主的学習を促進するポイントをどのように捉えているかという3項目から構成される「自主的学習調査用紙」を作成し、それぞれの質問項目に対する自由記述式回答を質的に分析することにした。自由記述の内容分析はBrown (2001)を参考にして、企画担当者が下記の3ステップにより第一次分析を行った。

ステップ1：質問項目ごとに一人一人の記述式回答を取り出し、はっきりとした意味をもつ要素、内容のある記述、キーワードを見つけ出し、それらにマークをつけていく。

ステップ2：ステップ1でマークを付けた要素や記述をもとにして、それらの記述内容をまとめて要約することのできる概念カテゴリーを作る。

ステップ3：作成された概念カテゴリーを「自主的な学習を促進する指導モデル」の構成要素と捉え、図式化して整理を行う。

さらに最終ステップ(第二次分析)として、企画担当者が作成した概念カテゴリーおよび自主的な学習を促進する指導モデルの妥当性について看護学部FD委員(7名)による研究協議を行い、分析結果を同年12月の定例教授会において報告を行った。

4. 分析結果：学生の自主的学習を効果的に促進する指導モデル

学生の自主的学習の現状分析について、7科目中6科目の担当者が「学生の学びにおいて不足しているもの(自主的学習阻害要因)」に着目しており、この分析に基づいて5科目が「学習スキル向上型」の、3科目が「興味・関心・意欲向上型」「専門的能力・資質向上型」の実践計画を立案していることがわかった。また、自主的な学習を引き起こす要因(=自主的学習の動因)は「直接的動因」と「間接的動因」に分類され、自主的学習の指導ポイントとして「授業展開・授業内容(5科目)」「授業姿勢(4科目)」「資料配付の仕方(3科目)」「課題提示の仕方(1科目)」が示唆された。

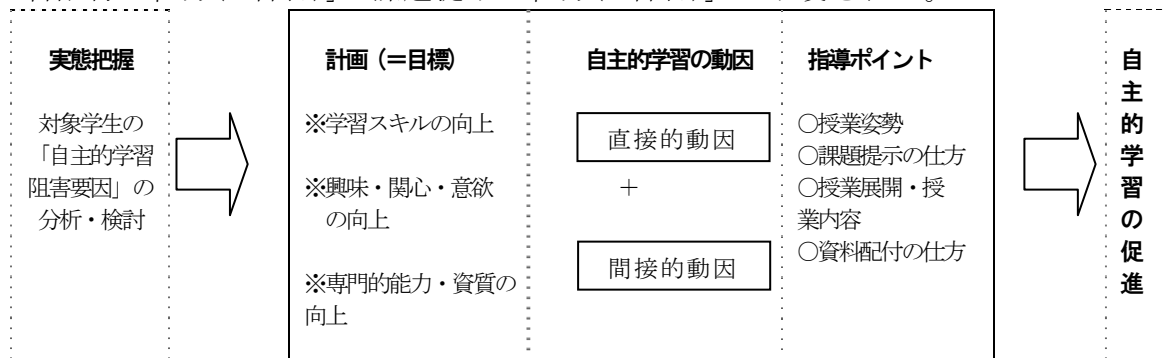


図1 自主的学習促進プロセス

分析の総括として、今回の調査データから作成された概念カテゴリーを「自主的学習促進プロセスを構成する要素」と捉え、図式化を行った結果(図1)、自主的な学習を効果的に促進するための指導とは、1) 学生の学びにおいて不足しているもの(自主的学習阻害要因)を分析・検討し、2) その分析・検討結果に基づき、何を学ばせるべきかを考究し、3) 自主的な学習を直接的かつ/あるいは間接的に引き起こす動因(方法)を模索し、4) それらの動因を誘発しやすい内容を考案する、ことであるというモデル構築に至った。